

ワーカーズ

www.wokers-2001.org

毎月1日・15日 発行1部150円 半年2000円(郵送)
郵便振替 00180-4-169433 (ワーカーズ社)

2005/5/1 メーカー号外

私たちの目標

- 一、私たちは、搾取、抑圧などの根源となっている資本制社会を変革し、自由で自律した諸個人の連合社会、すべての人が生産と社会的・政治的決定に平等に参加するアンソニー・シオン社会の実現をめざします。
- 二、私たちは、労働者階級の解放は労働者自身の事業であるという立場から、搾取、抑圧、差別、環境破壊や戦争などに対する労働者の闘いに参加し、その発展のために活動します。
- 三、私たちは、活動の中心課題を、以下に置いて取り組みます。
イ、職場や地域で労働者の団結した闘いを創り上げること。
ロ、労働者階級の解放のために闘うすべての人々と連携し、共同行動を積み上げて行くこと。
- ハ、資本制社会の諸矛盾の解決と労働者の解放の諸条件、労働者の建設すべき新しい社会の性格を明らかにするために必要な、現代社会の科学的説明を行うこと。
- ニ、上記の活動を推し進めるため新聞等を発行し、その充実と普及につとめること。

祝メーカー

新たな〈格差社会〉〈階級社会〉が到来 企業と雇用形態の壁を越え、 労働者の団結をつくりだそう！

新たな〈格差社会〉〈階級社会〉が到来

■新たな〈階級社会〉

無権利で不安定・低処遇労働者の急増が止まらない。パートや派遣、契約、請負、有期などの雇用形態で働く労働者はこの10数年で倍増し、小泉政権の4年間だけ



でも非正規労働者は4人に一人から3人に一人に急増している。その大多数は本人の意に反して低処遇で不安定な地位におびえながら働くことを余儀なくされている。

総じて制度上は職能給だが実質的な年功給が温存された段階は過去のものになった。「結果平等」社会が切り崩され「機会平等」という差別構造がつけられた。さらに労働者の階層構造自体の固定化と歩調を合わせるかのように「機会平等」さえ形骸化しつつある。だから新たな〈階級社会〉だとい

■労働者の使い捨ては許さない

非正規労働者の拡大は、いうまでもなく企業が必要ととき、必要なだけの労働者を、安くこき使おう、という資本の論理がくりだしたものだ。

その非正規労働者の多くは年収一〇〇万円から三〇〇万円の生活を余儀なくされている。また「自殺者3万人時代」は続き、リストラや長労働時間で労働者は体や精神を蝕まれている。こうした中で

「ニート」と呼ばれる働く場と意欲を奪われた若者も急増している。総じて法的にも、労働組合にも保護されない膨大な労働者がつくられている。無法地帯と化した労働市場に対する労働者の規制力が問われている。使い捨て労働力の拡大を許してはならない。

■分断を乗り越えて〈均等待遇〉を実現しよう！

市場万能主義を背景とした労働者の新たな階層構造を打破するのは、あらゆる雇用形態の労働者の〈均等待遇〉の要求と闘いだ。〈同一労働同一賃金原則〉の確立と

実現をはじめ、あらゆる処遇の〈均等待遇〉の要求のもとすべての労働者は結集して闘う以外にない。そこにこそ労働者の共通利益がある。

そうした闘いは決して空理空論ではない。日経連の「新時代の『日本的経営』」や、「新たな階級社会」自体が、個別企業の壁を越えた労働者の団結や連帯の可能性と条件をつくり出しているからだ。労使運命共同構造はすでに経営側からホゴにされ、派遣やフリーターなど、いまや個々の企業利益に縛り付けられない労働者も大量につくりだしている。

私たちは個別企業の壁と雇用形態の壁を越えて団結することで〈均等待遇〉を勝ち取れるし、そうした闘いが現実味を帯びた場面に立っている。

(廣)

ワーカーズを読もう！

『ワーカーズ』は月2回発行の12ページ立ての新聞です。様々な問題を取り上げ、鋭く、深く切り込んだ記事や論評を掲載しています。ご希望の方は見本紙を1ヶ月間無料でお送りします。下記の所までご連絡下さい。

TEL/FAX 04-7140-7633
workers@worksers-net.org

排外主義に労働者の国際連帯を対置しよう！

資本との闘い強め、アンシエーシヨン社会に向け前進しよう！

●海外派兵、日の丸・君が代…きな臭い匂い再び

この数年の間の日本の変貌ぶりに本当に驚かされる。

アフガン戦争に自衛艦隊を派遣し、その次にはイラク戦争に地上部隊を送った。さらには「使える核兵器」開発や核の「先制使用」を公言し地球全体を自らの覇権の下に置こうとする米国と緊密な軍事協力を約束し、軍事一体化の道を突き進もうとしている。

保守政治家たちは、アジア諸国への侵略戦争や植民地支配を美化し、強制連行や従軍慰安婦制度や大量虐殺などの戦争犯罪を覆い隠そうとする発言を繰り返す。学校では日の丸への敬礼や声量チェックを伴う君が代斉唱が強制され、教育基本法の改悪が目指され、自衛隊のよりおっぴらな海外派兵や海外での武力行使を

可能にするための憲法改悪の準備が進められている。

●「国際貢献のため」「隣国の脅威があるから」のウソ

資本や政府は、自衛隊を海外に派遣するのは「国際貢献」のためだ、日本が米国と緊密に協力しつつ軍備を強化しなければならぬのは北朝鮮のような「危険な隣人」がいるからだ、と言う。

しかし、「国際貢献」が軍隊の海外派遣によって為されなければならない理由はどこにもない。むしろサマワに派遣された自衛隊は、同じ費用で見積もってNGOの数百分の一の給水活動しか行えず、そればかりかNGOによる人道支援活動の障害物となっている。

また隣国に重大な脅威を与える存在となつてきているのは、日本とて同じだ。米国と緊密

な軍事同盟を結び、軍事力の強化に務め、海外の戦場に自衛隊を派遣するなどの行為によって、日本は再びアジアの国々が恐れなければならない存在になりつつある。その事実を隠して、ひたすら「危険な隣人」の存在を言い募るのは、欺瞞以外の何ものでもない。

「国際貢献」や「隣国の脅威」の口実が通用しないと、彼らは、これなら文句ないだろうという顔をして「日本の利益」を持ち出す。「語るに落ちる」とはこのことだ。これでは、石油資源のため、軍需資本のビジネスのため、ドル支配体制の維持のためと言つて世界中に軍隊を配置し、多くの独裁政権を支え、貧富の格差の拡大を放置し、そしてその矛盾が吹き出すと戦争を仕掛けて批判者、挑戦者を打ちのめしてきた米国と同じだ。自国の利益の確保こそ大事、そのためには軍事力による威嚇でも戦争でも

な軍事同盟を結び、軍事力の強化に務め、海外の戦場に自衛隊を派遣するなどの行為によって、日本は再びアジアの国々が恐れなければならない存在になりつつある。その事実を隠して、ひたすら「危険な隣人」の存在を言い募るのは、欺瞞以外の何ものでもない。

何でもありというやり方こそが、米国が世界の貧しい人々から嫌悪の目で見られるようになり、9・11のテロを招き寄せた原因なのだ。

●平和への道は労働者・民衆の発言と行動から

日本が平和に生きていくため、世界を平和に近づけていくためには、軍隊派兵などではなく民衆の自主的な取り組みによる国際貢献、侵略や植民地支配やその渦中で行われた数々の蛮行に対する本心からの謝罪や補償や責任者の処罰を通じたアジアの民衆との友好の促進、そして資源争奪競争ではなくその共同管理・共同利用の試みこそが求められている。

しかし、資本や保守政治家



たちが進んでこの道を選ぶことはありえない。彼らにとつて大事なことは、日本と世界の民衆の平和や繁栄ではなく、あくまでも彼らだけのための経済的利益、政治的支配力の強化であるからだ。彼らは、自分たちのエゴイスティックな権益拡大のため、軍事強国化とそれに無批判な国民の育成にひたすら突き進もうとしているのだ。

彼らが進む軍事強国化、海外での覇権の伸張と国民統制強化の道を押しとどめることができる最大の力は、私たち労働者・民衆の行動だ。労働者による草の根からの発言と行動を強め、広げることだけが、軍事強国化と国民に対する管理・統制強化の道を押しとどめることを可能にする。

韓国、中国、そして世界の労働者と連帯し、資本の支配と闘おう！

韓国で日本への抗議行動が燃え上がり、中国では反日デモが吹き荒れた。その背景には、両国の支配階級の中におき上がるナシヨナリズムがある。米国や日本などと距離をとり、北朝鮮との統一も視野に入れてつつアジアの先進中堅国として存在感を示そうとする韓国。米国をも制する力を持った超大国へと成り上が

ることをめざす中国。この両国の支配階級は自らの政策や体制への国民の動員、国民統合を強める必要を痛感しているのだ。

しかしそればかりではない。この反日抗議行動や反日デモは、侵略と植民地支配の過去に引き直りつつ再び軍事強国化の道へ突き進むつつある日本国家に対するこれらの国々の労働者・民衆の強い警戒心と反発の現れでもある。そして同時に、これこそが重要な点であるが、これらの闘いは、これら両国の労働者・民衆による自国の支配階級に対する異議申し立て、反抗の表現という性格も合わせ持ち始めている。

資本のグローバルゼイションは、世界中に賃金労働者階級の大群を生み育てつつあり、彼らを自らを支配する資本との闘いへと駆り立てんとしている。今こそ日本の労働者は、彼らと連帯を追究し、資本に対する共同の闘いを準備するための活動を強めなければならない。

搾取と支配・抑圧の体制を克服し、自由で自律した労働者の自主的な連合に基づく社会に向かつて進んでいくための条件が、世界の多くの国々や地域において日々発展しつつある。すべての人が生産と社会的・政治的決定に平等に参加するアンシエーション社会の建設をめざして、世界の労働者と連帯して闘おう！